

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		衣料品専門店（経営者）	・直前の動きとして、少し単価の高い物が売れ始めてきたことから、今後やや期待を持っている。
		乗用車販売店（従業員）	・引き続き新型車が発表される予定である。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車の投入で良いスタートが切れており、さらに11月にも新型車が出る予定で、当分の間、良い方向に進むと期待している。
		ゴルフ場（従業員） 設計事務所（所長）	・予約状況が前年より増えている。 ・県内各地で大型小売店出店の動きがある。
	変わらない	商店街（代表者）	・魅力ある商品がないという理由がかもしれないが、来客数が少なく、商品もあまり動いていない。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・石油関連製品、ガソリンなどの値上がりの影響が景気を悪くするのではないかと心配である。
		百貨店（総務担当）	・依然として、客は、プロパー商品（通常価格の商品）よりパーゲン商品に目が向いており、大幅割引、全館割引セールを待っている客が多い傾向は変わらない。
		スーパー（店長）	・オリンピック効果で家電製品など一部の売上が伸びたが、次に売れる商品が見当たらず、厳しい状況がまだ続く。
		スーパー（企画担当）	・消費税総額表示導入以降の商品単価の下落影響もあり、客単価は依然、前年を割ったままであり、この傾向が今後も続く。
		スーパー（財務担当）	・今年のお盆商戦は、曜日の並びが悪かったにもかかわらず、前年比2.4ポイント上回り好調に推移したが、客単価は3月以降、毎月前年比を下回っており、今後もこの傾向が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・猛暑の影響で、秋物の立ち上がりが鈍い。来客数が減少しており、客の必要な物しか買わない単品買いの傾向は当面続く。
		家電量販店（店長）	・デジタル映像機器、エアコン、パソコンなど主軸商品に注力して需要を確実に取っていかないと、売上確保は難しい。
		一般レストラン（経営者）	・今月は大勢の客が来店した感じはするが、相変わらず低価格帯の注文しか入らず、売上はあまり変わらなかった。こうした状況から判断すると、良くなるとは思えない。
		旅行代理店（従業員）	・特に秋の行楽シーズンを迎えて、社員、グループ、家族旅行とも期待でき、順調に推移していく。
		観光名所（経営者）	・10、11月は当観光地の一番の繁忙期であるが、今年は曜日の組合せが悪く期待が持てない。
		美容室（経営者）	・客の動きが鈍く、来店周期が非常に長くなっており、今後もっと長くなる気がする。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン金利が上昇すると言われてにもかかわらず、客の様子に変化がみられない。
		その他住宅〔不動産〕（経営者）	・土地の値下がりはまだ続くと思われるし、しばらく景気が良くなるとは考えにくい。
		やや悪くなる	衣料品専門店（経営者）
タクシー運転手	・夏のイベント、盆などで出費がかさんでおり、人の動きは悪くなる。また夏休み後は、再びサービス残業が増えて、遊びに出る機会は減るとの客の声が多く聞かれる。		
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	通信業（営業担当）	・民間企業から出先とのネットワーク化等について提案要請がある。また客との会話の中で、投資の話題が増えてきた。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・一部には、国産品が見直されており、順調に注文が入っている。ただし、輸入の勢いは止まっておらず、予断を許さない状況に変わりはない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・西日本地区では大型クレーンの稼働率が上昇している。しかし、元請の安値受注や資材高騰のしわ寄せがリース料金の低下という形で現れており、当分、ユーザーの購買意欲に大きな変化が表れるとは思えない。
一般機械器具製造業（経理担当）	・循環型社会への取組など、案件は出てきているが、許認可問題など、業界の難しさを感じている。また、東海地区の排ガス規制による更新の動きもあるが、関東地区ほどのパワーは感じられない。		

	電気機械器具製造業（経営者）	・電気機器のDVDレコーダー、LED関連など一部業種は非常に好調だが、従来からの客である食品、化学関連などは依然停滞気味である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・原材料、素材関係、特に樹脂、鉄鋼価格の値上がりなど悪い要素があり、景気は良くならない。	
	建設業（総務担当）	・民間工事の引き合い件数は、若干増加傾向にあるが、収益面では、かなり厳しい状況がまだまだ続く。	
	公認会計士	・取引先企業の設備投資に対する考え方は慎重であり、また、不動産価格も下げ止まった感じがしない。小売業、建設関係も、売上の伸びが期待できないという話が多く、ここ3か月で景気が立ち直るとは考えにくい。	
やや悪くなる	化学工業（営業所長）	・一般的に石油関連製品は値上がり基調となっており、再値上げの動きがみられる。しかし、値上げが末端まで転嫁できず、流通段階、中間業者が吸収しなければならない場合、非常に厳しくなるので、倒産する会社が出てくるとみられる。	
	輸送業（役員）	・原油価格の急激な値上がりによって、どの業界でもコストアップの影響を受けているが、現在の景気状況では販売価格には転嫁できないので、一部の業種を除いては、原油価格の上昇が景気の足かせとなる。	
悪くなる	-	-	
雇用関連	良くなる	民間職業紹介機関（所長）	・採用増に伴い、生産性が向上している。
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・引き続き、派遣・アウトソーシング等の依頼は堅調で、10月以降も求人がある見込みであり、やや良くなる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・多様化した中途採用に加え、今時期から年末にかけて新卒採用の企画の受注が増える。全体的にも、景気の若干の回復も見込まれ、新卒採用問わず、少し底上げされる見込みである。
	変わらない	職業安定所（職員）	・新規求職者数は例年に比べ、パート求職者を中心に、2か月連続して増加した。大規模な雇用調整はみられないが、自己都合離職者の増加傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人は前年同月比でマイナスとなったが、一方で、パートを除く派遣や請負求人は、前年同月比2割増となっている。
		学校[大学]（就職担当）	・新卒者の採用数に関しては、世間で言われる景気上向きと連動している様子はいかたがう。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-